

# 光鯨会だより

第26号 [令和元年7月]

発行 | 光鯨会  
会長 | 小野 徹郎 (S43)  
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)  
連絡先 | 夏目 欣昇 (H5)  
☎ 052-735-7967  
✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内

ごあいさつ | 「光鯨会だより」のリニューアルに向けて 本部長 井戸田 秀樹 (S58) 名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この「光鯨会だより」は、光鯨会、大学、卒業生の近況報告と催しの情報提供を目的として毎年7月と12月に発行しています。世代を超えた同窓生の情報共有の場として、光鯨会発足以来途切れることなく発信を続けてきました。いままでは、主に大学等の近況に加えて、幅広く卒業生から日々の報告を頂くことを目的としてまいりました。同窓会の会誌という性格上、このような報告が読者から望まれているとは思

ますが、この「光鯨会だより」をより魅力的で興味ある内容にして行くべく、次号からは活躍する卒業生にターゲットを当てた新しいコーナーを新設するとともに、今までの光鯨会会員の活躍の軌跡をアーカイブとして記憶するデータベースとしての役割も担っていこうと考えています。詳細については、次の第27号(令和元年12月発行予定)にて明らかにしようと考えていますが、今までも増して魅力的で充実した「光鯨会だより」に生まれかわりますので、乞うご期待下さい。

今後とも、光鯨会会員の皆様のさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

## I | 大学は今

### □分野長挨拶

北川 啓介 (H8) 名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方には、常日頃より、母校の建築・デザイン分野での教育面、研究面でも、幅広くお世話になっておりますこと、まずは心より感謝申し上げます。毎年秋頃から少しずつ始まります現役の学部生と大学院生の就職活動に際しまして

も、在学中のインターンシップ活動に際しまして、また、光鯨会会員の皆様方に教鞭を執っていただく際も、やはり、名古屋工業大学建築学科が代々受け継いできたからこそこの独特な環境が繋ぐ先輩と後輩の関係は、在学した者にしかわからない信頼関係が通底していることを日々、実感しております。分野長を務めます間に、これまでの長き伝統を引き継ぎつつも、実社会の要請に応じた光鯨会会員の皆様方のご意見を賜りつつ新しい一歩も踏み出すべく、教員も学生もフットワーク良く活動して実績を積んでいける建築・デザイン分野の環境を大切にしていける所存です。

教員の動向では、2019年1月より建築歴史・建築意匠を専門とする濱田晋一氏(DH22)が准教授として着任、2019年4月より建築材料・知的財産活動を専門とする伊藤洋介助教(MH17)が准教授へ昇任、2019年7月より建築設計・建築意匠を専門とする今枝良輔氏(H24)が特任助教として着任いたしました。全学の役職員では、学長補佐(ダイバーシティ推進担当)

を藤岡伸子教授、つくり領域長を河辺伸二教授(S59)、高度防災工学センター長を井戸田秀樹教授(S58)が務めております。

さて、2019年4月の社会工学科建築・デザイン分野の学部1年生は、全国的な地元主義の傾向とは少々変化し、一期校の時代とまでは申し上げませんが、中部地方以外の遠方の出身者がぐっと増えました。入学後間もなくから学部1年生もしばしば各研究室の教員や先輩を訪ねてきます際に、このあたりについてさり気なく質問しましたところ、「実家を設計した建築士さんが名工大出身で憧れた」「雑誌の特集号で名工大出身の建築家のかっこいい建築に感動した」「宮大工の祖父が名工大を薦めた」とのことでした。そうした中、「名工大には光鯨会という組織があり、名工大は建築でもつ、と中学時代に聞いた」と答えた利発な女子学生がいました。楽しそうに話す姿は、私の目には、キラッと光るところか後光を放って見えました。まさに、前述いたしました未来に向けた新しい一歩を踏み出した彼ら彼女らの覽古考新の姿勢に、光鯨会のひとりとして嬉しく感じております。

皆様方におかれましては、お近くへお越しの際に、是非、お気軽に母校を訪ねていただき、現役の教員や学生を叱咤激励いただければと存じます。引き続き、何卒、宜しくお願い申し上げます。

□新任教員挨拶

濱田 晋一 (DH22) 名古屋工業大学准教授



平成 22 年に博士後期課程修了後、文化財建造物の修理技術者として、文化財建造物保存技術協会(文建協)に入社しました。昨年 12 月で退社し、今年の 1 月より本学の准教授として就任致しました。どうぞ宜しくお願いいたします。

文建協に入社してすぐに、長野県塩尻市にある、重要文化財小野家住宅(旅籠建築)の修理に 3 年 5 ヶ月携わりました。その後、岩手県二戸市の瀬戸内寂聴さんが住職を務めておられました、重要文化財天台寺本堂および仁王門の修理に、5 年 4 ヶ月携わりました。天台寺の保存修理中に、青森県弘前市の史跡弘前城本丸石垣の保存修理にも携わることができました。城郭石垣の構造や技法を学び、理解を深めることができました。また、保存修理中は、設計監理業務を行うとともに、解体に伴う調査によって明らかとなった、技法や仕様についての研究も行っていました。

今後本学では、これまでの保存修理工事で得た経

験を活かした、実務型の教育及び研究活動を行っていきたいと考えております。

また、光鯨会につきましても、貢献することができますよう、努めて参ります。まだまだ未熟者ではございますが、何卒よろしくお願いたします。



小野家住宅主屋(竣工後)



弘前城本丸石垣解体修理中

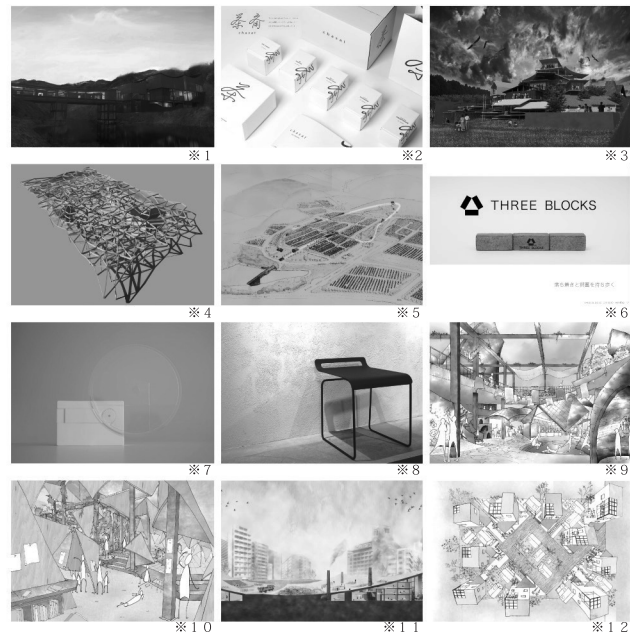
□学生の活躍

夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

平成最後、30 年度の学生の活躍を報告いたします。光鯨会賞には津田健太君(建築系)※1「くらしのモノサシ 地域内林業とモノづくりが紡ぐ風景」が輝きました。衰退が危惧される中山間地域において、自伐型林業に着目し新たな林業形態を実現する建築によって再生する提案です。「設計を評価していただいた事を光栄に思います。この度の受賞を自信に繋げ、今後も精進してゆきます。」学科長賞は鈴木祐人君(デザイン系)※2の休息を少し上質してくれるお茶ブランド、「茶齋」が授賞しました。「これまで学んできた事の集大成となるよう制作したものが、このように評価していただいたことを大変うれしく思います。」これ以外にも学外の学生コンペ等において山口君はじめ多数の学生が表彰され、名工大生の多彩な力を発揮しております。その一部を文末で紹介いたします。学業優秀者を讃える光鯨会学生奨励賞は岡田徹也君はじめ 19 名が受賞いたしました。その一覧を以下に記します。

■光鯨会学生奨励賞受賞者

- 学部 4 年：岡田徹也君、西村優花さん、手嶋真大君、桜田裕斗君、水田航平君、山口裕太君、中村圭吾君
- 学部 3 年：大崎拓実君、田上功也君、西尾さつきさん、角田麗江さん、藤田倫也君、舟橋正羅さん、伊藤有那さん
- 学部 2 年：桐山三奈さん、宮川詩布さん、沢田雄基君、長妻昂佑君、筒井咲良さん



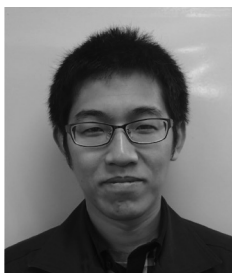
■学内外での学生の活躍

NAGOYA Archi Fes 2019 中部卒業設計展 ファイナリスト・総合資格学院賞 山口裕太君※3、Design Review 2019 60 選 山口裕太君※3、加納健一君※4、せんだいデザインリーグ 2019 100 選・中部インテリアプランナー学生賞 鈴木篤也君※5、JIDA 中部ブロックデザイン賞 最優秀賞 中川和紀君※6、同優秀賞 橋本拓実君※7、同アイザワ賞 渡辺悠介君※8、建築新人戦 2018 100 選 大崎拓実君※9、杉山莉奈さん※10、日本建築学会設計競技 東海支部入選 遠藤大輔君・伊藤啓君・大石理奈さん※11、アサヒグローバル学生設計コンペティション 優秀賞 大石理奈さん※12、日本建築士学会 2019 年学生研究奨励賞・日本建築学会東海支部 2018 年度学生優秀学術講演賞 井上裕太君、平成 30 年度日本建築学会大会(東北)学術講演会建築社会システム委員会 若手優秀発表賞 石井星也君 他

## II | 卒業生は今

### □本部

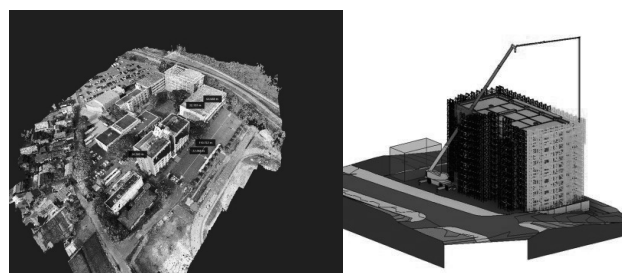
#### 近藤 賛尚 (H17) 矢作建設工業(株)



学部を卒業後、矢作建設工業(株)に入社して以来13年間、建築工事の施工管理業務に携わってきました。これまで従事した工事は、集合住宅、宗教建築、ショッピングセンター、オフィスビル、自動車ディーラーなど多岐に渡ります。東海地区での仕事が多い弊社ですが、工事によっては日本各地での工事を行うため、私は現在埼玉県で大型物流倉庫の新築工事を手掛けています。

昨今の人手不足が問題となっている建設現場ですが、その現状を受けここ数年ICTの活用による業務効率化が叫ばれており、施工管理のやり方が大きく変化しています。弊社でもBIMを使用した施工計

画や施工図作成、ドローンによる敷地測量、データを活用した重機掘削などを取り入れ、建設現場の変革期に立ち会っているという空気をひしひしと感じると同時に、この変革は未だ過渡期であり、数年は加速的に継続されると予想されます。建設に携わる者として変革に取り残されないよう、これまでの一般的なタスクも、より正確かつ効率的にこなせるよう、最新技術についての日々の勉強が欠かせません。



#### 松本 健規 (H22) トヨタホーム(株)



大学院を卒業後トヨタホームに入社し、3年間の営業設計業務を終え、現在の商品開発部に配属されて3年が経過しました。商品開発部では新築住宅の性能開発を担当し、企画と実験を繰り返しながら、耐震性能、防火性能、断熱性能など住まい手の快適性を高めることが主な仕事となります。

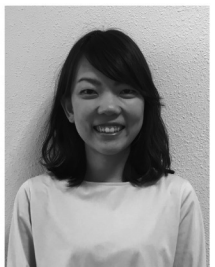
日本の住宅市場が縮小し、情勢が目まぐるしく変化する中、経営も多角化が進められています。最近では、私の業務も新築住宅に限らず、リフォームや海外事業といった新しい分野の業務に携わることが増え、日々勉強しながら新鮮な気持ちで取り組んで

います。

直近では、インドネシアの住宅商品の開発に関わっていますが、日本とは異なる風土や災害のある地域に対し、どのような性能であれば快適に住まうことができるのかを追求しています。日本の住宅の持つ良さを海外に発信する一端を担えるよう、高い好奇心を持って目の前の問題に向き合っていきたいと思っています。



#### 藤井 純子 (H26) 名古屋市役所



名古屋市役所に入庁して、現在3年目です。配属先は住宅都市局営繕部で、教育施設の営繕業務を担当しています。1年目は、小規模な改修工事の設計監理、工事監理から始まり、現在は校舎棟のエレベーター増築や、内外装ともに一新する、リニューアル改修を担当しています。

名古屋市内には370を超える学校があるので、老朽化した校舎を順番に改修しています。耐震化や、空調整備など教育施設に求められる性能は時代とともに変化するため、スピード感を持って計画的に取り組む必要があると感じています。現在は、各校のブロック塀改修やバリアフリー化を中心とする改修

を多く行っています。

営繕部の業務は、監理業務が主なため、設計事務所や施工業者とのやり取りに難しさを感じることもありますが、仕事の成果が目に見えるので、やりがいのある大きな仕事だと思えます。今後は、行政としてあるべき姿を考えて、より良い提案ができるように知識を深めていきたいです。



## 浅倉 和真 (H25) (株)奥村組



今年度で奥村組に入社して4年目となります。1年目は、東京都にある清掃工場の工事で現場管理を行い、2年目以降は設計部に配属されました。入社当時は慣れない現場業務に苦労しましたが、徐々に環境に慣れていき、現場業務の楽しさややりがいを見出すことができました。また、建物が建てられるプロセスを間近で体験することができたので、設計業務においてもディテールが具体的にイメージできるようになり、1年目の経験が活かされていると感じました。現在は、大阪本社の建築設計部に所属しています。私が所属する課は、主に物流・生産関係を主に扱っており、これまでに医薬品関係の工場や物流倉庫等の案件に携わってきました。他の部署と比較して医薬品関係や工場関係の専門知識を要する分野なので、まだ知識が不足している部分

が多く日々勉強しています。

昨年は、私が携わった物流倉庫が竣工されました(写真)。物流・生産関係の案件は建物規模が大きく、大変な分野ですが、同時に完成した時の達成感も大きいのが醍醐味だと感じています。

今後は、設計部内に後輩がさらに増えていきますので、責任感を持って研鑽の心を忘れないように日々取り組む所存です。



写真：某物流倉庫竣工写真

## □「OBOG交流会」アンケート報告

### 松本 健規 (H22) トヨタホーム(株)

2018年12月5日(水)に開催された第13回OB・OG交流会のアンケート結果をご紹介します。学部3、4年生、大学院生を対象に、OB・OGから仕事の内容や職場の様子、就職活動のアドバイス等を紹介し、今後の進路の参考にしてもらうことを目的として毎年開催しているイベントで、今回は49人よりアンケートを取得しました。

全体の満足度は5段階評価で上位2つの「満足」・「やや満足」を合わせると80%で、例年並みの高評価となりました。自由記述では「幅広く知識を深められた」「生の話を聞けてためになった」といった感想が目立ち、本活動が学生たちの進路選択の参考となっている様子が伺えました。他にも、「楽しそうに生き生きと話をされる方々が多くて、名工を卒業してやりたいことを実現している姿が見て嬉しかった」「自分のやりたいと感じていること、楽しいと思うことを、それぞれの価値観に沿って実現させている点から勇気をいただいた」との意見もあり、OB・OGの生き生きとした姿に自分の将来を重ね、希望を感じてもらえる機会にもなっているようです。

今後話を聞いてみたい分野については「意匠設計」「ゼネコン」「ハウスメーカー」が例年通り高い傾向にある中、「都市開発」の声が増加しており、建築単体だけでなく街づくりまで目を向けた学生が増えているようです。また、「インテリア」も同様に増加しており、建築分野だけでなくデザイン分野にも注目が集まっていることも分かります。多様な声に目を通す中、今の学生が目を向ける就職先の裾野が

広がっている印象を受けました。

「これからもお話をさせていただけると、とてもありがたいです」との声も多く頂き、来年以降も学生の要望を取り入れながら継続して開催していきたいと考えています。



## □関東支部

### ルクマン (H19) 大成建設(株)



平成 19 年に本学修士を終了後、大成建設(株)に入社し、今年で入社 11 年になります。私はプロマネ採用として入社し、最初の 3 年間は構造設計を設計部で学んだ後、現場配属になりました。設計配属の時、主に RC 住居系を設計し、設計業務の基本や考え方などを学びました。4 年目からは現場配属になり、物流倉庫を担当しました。現場は内勤とは異なり、かなりハードでした。特に最初の 2 年間、仕事の内容と職人との関わり方に苦労しました。ようやく、現場の 3 年目からは施工の流れや職人とのコミュニケーションをうまく出来る

様になりました。そして、失敗した経験から生まれたのは「一緒に考えること」です。ともに課題を考え、ともに乗り越えることでチームワークが生まれ、仕事の質が向上します。また、現場では、職人との協力なしでいい建物は造れないため、言葉遣い、振る舞いを心掛けています。

平成 27 年から国際設計部に異動となり、海外 PJ の構造設計を担当しています。今の仕事は設計業務というより設計アドバイザーに近いです。海外のコンサルが設計したものに対して、現地の設計コードや当社の品質などに合っているかどうかを確認したりアドバイスをしたりしています。そこで現場配属時に得た知識を生かし、海外コンサルと共に「一緒に考えること」を心掛けています。

### 関戸 重裕 (H21) (株)大林組

平成 21 年に本学部を修了し、大林組の建築生産系(現場管理)の採用で入社。今年度で 11 年目を迎えることとなりました。入社後、2 年間の東京研修期間を経て、名古屋支店に配属となり、ホームセンター、自動車会社の研究施設、病院等の物件の現場管理を経験しました。

現場管理は、毎回各工事事務所で建設する条件が異なりますので、常に新鮮な気持ちで業務に努めることができます。着工当初から工事に携わることができた病院の現場では、工事の全体計画から始まり、タワークレーンの計画、鉄骨工事計画など自ら計画したプランを実施することで、現場管理のやりがいや達成感を見出すことが出来ました。

今年の 3 月からは、東京本社に転勤となり、主任以下の若年職員の教育を担う部署(人材育成課)に配属となりました。具体的には、実践の業務に即し

た研修のカリキュラムを立案し、自分の体験談を講義に踏まえながら、若手職員に指導を行っています。人手不足が常の建設業界で、時短を推奨した働き方が求められているので、若手職員個々の質を高め、現場の即戦力にさせることをいつも心がけています。また、指導する立場となると、建築のみならず幅広い分野の知識を要求されるため、日々自身の自己啓発にも励んでおります。



### 倉田 駿 (H27) (株)竹中工務店

2018 年に大学院を修了後、竹中工務店へ入社し今年で 2 年目となります。入社 1 年目は研修期間として、意匠設計・見積・現場管理の三つの部署をそれぞれ経験し、形が決まる→金額を決める→施工を行う、という実際の建設の流れを実施で学ぶことが出来ました。

現在は研修を終え、都市開発を業務とする開発計画本部にて、都内の複合施設や郊外の商業施設の企画・開発に関わっています。実際のところ、立ち位置としてはほとんど新入社員の為、勝手がわからず苦労の連続ではありますが、しかし与件を整理し、施主の方と打合せを重ね、徐々に計画が明瞭になる様子は刺激的で、時間を忘れてしまいます。

計画すべてが終わるのに数十年を要するような息

の長いものもあり、粘り強く計画に向き合う力がこれから一層必要となってはきますが、建築を通して「より良いまちをつくる」という大きな目的をこれからも忘れずに邁進してまいります。



現場研修での朝礼



研修で訪れた弊社物件

## □関西支部

### 浅田 豊 (S59) 独立行政法人都市再生機構 (略称: UR)

昭和 59 年に福知研を卒業しゼネコンに入社しましたが、平成 8 年に UR の前身の住宅・都市整備公団に転職しました。UR は名工大生が少なくなじみのない会社とおもいますので、私の仕事と共に会社の紹介も少しさせていただきます。

UR は、大手町、梅田駅北地区などの都市再開発と自社の賃貸住宅管理が二大事業です。私は集合住宅の建替と既存住棟の耐震改修の構造設計がメイン業務です。実際に図面を描いたり、構造計算プログラムを走らせているわけではなく構造事務所に外注していて、UR の仕様に合致しているか設計監理をしています。構造計算書は作る以上にチェックに根気が要りますが、図面・計算書の隅々までチェックすると、実際自分が作成したような充実感があります。その他震災復興のお手伝いもしています。UR は国の

機関なので真っ先に仮設住宅、災害公営住宅の建設に動員され、私も岩手に単身赴任し災害公営住宅の建設に携りました。経験のない木造住宅がメインで最初戸惑いもありましたが、被災者の方々から感謝や労をねぎらう声を頂くなど、思い出深い 2 年間となりました。UR は今も東北や熊本県で復興を支援しています。

最近では吉岡里帆の CM で有名になり若い女性社員も増えました。私は余生がちらつく時期となりましたが、趣味の登山を続けたいですね。



冬の岩手にて

### 土方 和巳 (H8) 積水ハウス(株) 商品開発部 シャーウッド商品開発室 構造技術グループ

「私という家 シャーウッド」、宮沢りえのナレーションで締めくくられるテレビ CM があります。シャーウッドは、積水ハウスの木造戸建て住宅のブランド名です。木造軸組み構法を基としながら、独自に開発した金物接合部や、木造で一般的な要素である、筋かい、土台を無くしたオリジナルの木造システムとなっています。

私は、シャーウッドのフラッグシップモデルを企画する部門で、在来木造や同業他社の木造住宅と差別化をはかるべく、構造技術の開発研究を担当しています。最近では、耐力壁の剛性や靱性を向上させる新しい手法の模索研究や、大スパンでありながら床振動を起さない、架構仕様の検討に取り組んでいます。また、日本建築学会の木質材料強度検証小委員会の委員として、木質部材への切欠きの影響についての

研究にも取り組み、実験を開始しました。

プライベートでは、小学校の PTA 副会長と居住市の PTA 会計としての活動をはじめ、地域貢献しています。



「透」をテーマにした 2018 年発売のフラッグシップモデル

### 田中 弘臣 (H14) (株)竹中工務店

大学院を修了し、竹中工務店に構造設計として入社して今年で 11 年目になります。入社当初は、原子力部門として福井県にある既設の原子力建屋の安全性を検証する業務を中心に行っていました。その後、工場、病院、銀行店舗など一般建築物の構造設計や監理部門でのジョブローテーションも経験し、現在は主に商業施設の構造設計を担当しています。

昨年末には、担当した「MARK IS 福岡ももち」が竣工しました。本建物は福岡ヤフオクドーム！前面の敷地



に位置する延べ床面積約 12 万㎡の複数棟からなる商業施設です。商業施設の設計はプラン変更や調整事項も多く大変に感じますが、竣工後には家族とも利用者として訪れることができるため喜びも大きいと感じています。



### III | 光鯨会は今

#### □本部だより

中藪 昭彦 (S58) 本部幹事長/名古屋市役所



平成30年度より本部の幹事長を務めております中藪です。令和元年の光鯨会の評議員会、総会、見学会、懇親会を、5月25日に開催いたしました。

今年から午前中の開催となった評議員会では、本部に加え関東支部、関西支部の評議員の参加を得て、昨年度の活動報告及び会計報告、本部役員・幹事の交代、今年度の活動計画及び予算について審議がなされ承認されました。その審議の中で、光鯨会の事業収入を確保するため会費納入率の向上や会に対する寄付制度の導入などについて様々な意見が出されました。光鯨会の継続と更なる充実に向け収入確保は重要です。本部としては、まずは収入の基盤である会費の納入率の向上を目指し様々な働きかけをしてまいりますので、よろしく

お願いします。

くお願いします。

評議員会の後に栄で見学会が、見学会の後に大学に戻って総会が開催され、計48名の会員が参加されました。総会では、評議員会での審議内容の報告に続いて関東支部・関西支部のそれぞれから平成30年度の支部の活動報告を受けました。

そしていよいよ懇親会です。会場は大学会館1階として、18名の学生会員を含め73名の会員に参加していただきました。総会では、大学の近況報告や学生の自己紹介などが順次行われました。参加した学生は、自己紹介でも個別に面談してもきちんとした対応をしていました。多くの学生が二次会に積極的に参加してくれてOBとしては嬉しい誤算でした。光鯨会の活動を通じてOBと学生との交流の機会を増やしていきたいと考えています。

#### □「春の見学会」報告

鈴木 浩章 (H19) (株)竹中工務店 設計部 構造部門

5月25日(土)に2019年度春の見学会が(株)日建設計名古屋オフィス内 都市型模型サロン「Sakae-BA400」にて、実施されました。最高気温33度の暑い中にも関わらず、51名の方にご参加いただきました。

始めに、中藪幹事長(S58卒、名古屋市住宅都市局都市活性監)より開会のあいさつがあり、その後、富田氏(S62卒、(株)日建設計)より、「Sakae-BA400」の設置主旨と展示内容の解説をいただきました。模型縮尺は1/400で航空測量を元に作成されており、建物のペントハウスや地形の勾配なども詳細に表現されていると紹介がありました。模型サロンの壁面には日建設計社員による「名古屋・栄のまちづくりの魅力づくり」をテーマにした設計提案が展示されており、提案に対する意見も随時意見募集をしているとのことでした。

次に 横井氏(H10卒、名古屋市住宅都市局まちづくり企画課)より、「(仮題)栄地区の開発について」と題して名古屋市都心部のまちづくりビジョンとして各地域

別の開発のコンセプトを地域特性や歴史、各種統計データを交えながら説明いただきました。また、日本最大規模のPark-PFIとして実施された久屋大通公園の提案コンペの主旨やとコンペ当選案の提案内容の紹介がありました。提案では、南北の軸上に主要な広場を配し、テレビ塔を中心とした明快なビスタラインを形成することや都市に残された貴重な緑の樹木の適正な密度管理を行いつつ世代に継承していく等の紹介がありました。

講演後の質疑応答では、名古屋市の都市のあり方について活発な議論がなされました。



#### 寄付口座(鯨ボックス)の開設とご寄付のお願い 光鯨会会長 小野徹郎 (S43)

会員各位には其々のお立場で御活躍のことと思います。今回は光鯨会への寄付のお願いと新たに開設しました寄付口座のご案内です。

会長就任以降、会の財政の立て直しに向けて会員の皆様方からの声を聞きながら検討を進めてきていますが遅々として進まないのが現状です。同窓会としては90周年の折はじめた名工大建築フォーラム、100周年を期して設立した鈴木禎次賞、関戸さんのご厚意で生まれた東京ネットワークキャンパスや在学生に対する支援の一環としてのOBによる講義など、光鯨会と社会、大学との結びつきを深めています。しかしそうした活動にはどうしても運営資金が必要です。大学の同窓の結びつきは若い時はそれほど必要だとは思わないのですが、ある年齢になるとこの結びつきが掛け替えのない財産となっていることに気がきます。

先日の光鯨会の総会時に開催されました評議員会の席上、評議員の方々から寄付を募るシステムについて幾つかご提案がありました。そうしたご意見を踏まえて検討してまいりました結果、「鯨ボックス」という愛称を付けて寄付口座を開設致します。評議員会ではOBの方々に自身に関連して嬉しい事柄ができた時などにご寄付いただけるニコボックス的な趣旨も含めたらというご提案もありました。OBの方々のそうした嬉しいニュースとともに光鯨会へご寄付をいただければと思っています。なおご寄付いただいた方に関しては感謝の念もこめて「光鯨会だより」にお名前等を掲載させていただくようにしたいと考えています。

お願いばかりですが、是非ご趣旨をご理解いただきご寄付をお願い致します。

※振込時には氏名・卒業年を追記してください。

振込口座：ゆうちょ銀行 記号番号 00850-135875 (〇八九店 当座 0135875) 光鯨会 (コウコカイ)

三菱UFJ銀行 鶴舞支店 (267) 普通 1171139 光鯨会代表 夏目欣昇 (ナカノタクメシロ)

## □関東支部だより

恒川 真一 (H2) 関東支部長 / 大成建設(株)



令和元年度(2019年度)から二年間、関東支部長を務めさせていただき恒川と申します。至らない部分が多いと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。私は平成2年(1990年)に当時の社会開発工学科建築学コース(若山研究室)を卒業し、大成建設(株)の設計本部に入社しました。以来ずっと建築設計に携わってきました。卒業後、札幌支店勤務や海外勤務などもあり光鯨会の活動にはほとんど参加していなかったのですが、2015年から関東支部の幹事を務めさせていただくようになりました。その中で先輩方や若手の皆様のご活躍を目の当たりにし、あらためて名工大卒業生の素晴らしさや同窓会の大切さを実感しているところです。直近の関東支部の活動として、昨年11月に支部総会と懇親会が行われました。井戸田本部長、若山先生の他、新入会員13名を含む総勢70名の会員

の皆様にご参加いただきました。懇親会ではJIA新人賞を受賞された近藤哲雄さんから受賞講演を行っていただき、大変盛況な会となりました。今年度の関東支部の活動については、役員・幹事・相談役含め31名で進めていく予定です。その中で関東支部独自の活動として2014年からスタートしたネットワークキャンパスの活動は、多くの皆様からのご賛同と、参加する学生からの好評を得ている活動であります。しかしながら例年その予算確保の難しさと、参加してくれる学生の負担の多さ、インターシップの時期との調整などの課題を抱えていました。そこで今年度からは、①学生たちの参加のしやすさに重点②予算を再配分③例年よりも時期を早める等の対策を行い、名古屋で開催するべく調整を図っています。これを機にネットワークキャンパスを関東支部だけの活動ではなく、光鯨会全体の活動の一つにしていくことで、さらに価値のある活動にできるのではないかと考えています。

〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル  
大成建設(株)(03-3348-1111)  
関東支部長 恒川真一(H2)、副支部長 末廣晃一(S58)  
副支部長 鈴木孝彦(S59)、連絡担当者 小林浩(H7)

## □関西支部だより

長谷部 齋 (S56) 光鯨会関西支部事務局長 / (株)竹中工務店



メルパルク京都前にて

関西支部三役をゼネコン勤務の56年卒の3名が務め、本年度2年目です。主な活動は支部会員の皆様に好評をいただいている2か月毎に開催する定例会の企画運営です。本年2月は、竹中工務店設計部の寺谷啓史さん(H3)に「小さくてもキラリと光る作品創り」、4月は大同大学渡邊慎一教授(H3)に「熱中症を防ぐための街づくり」、6月は伊藤洋介准教授(MH17)に「電波を制御する都市」と題して講演をいただきました。皆さんにとって興味深いテーマの講演会を中心に、出席者が親しく語り合う場を提供することで会員相互のさらなる親睦を図っていきます。8月2日は大林組の稲葉一秀さん(H2)に京都南座のリニューアル工事の設計についてご講演いただく予定です。

また4月には名古屋工業会大阪支部の岡崎格郎支部長(S46)の呼びかけにより新たに企画された「第

1回名工会交流サロン」で竹中工務店中島正人さん(H9)に「北と南の百貨店建替え工事について」と題し実体験をもとに熱く講演いただきました。光鯨会関西支部からも数多く出席し、工業会全体の交流を図るため、お手伝いもできました。

そしていよいよ11月9日土曜日には、我々関西支部が幹事を務める新元号第1回目の全国大会を開催します。一人でも多くの全国の会員の皆様に集まっていただくため、人気の高い京都に決めました。開催場所は交通が非常に便利なJR京都駅前のメルパルク京都としました。講演は麓和善教授による「名古屋城の復元」、全国大会および懇親会は最大80名のご参加を計画しています。またそれに先立ち希望者の方を対象に京都・大山崎に建つ建築家藤井厚二の自邸「聴竹居」(重要文化財)の見学会も合わせて開催します。同期でお誘いあわせの上、また秋の京都散策を兼ねて大学関係者、光鯨会会員の皆様のご参加をお待ちしています。

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13  
(株)竹中工務店 大阪本店(090-3166-8456 中瀬)  
関西支部長 穂山和生(S56) 副支部長 坂口輝吉(S56)  
事務局長 長谷部齋(S56)